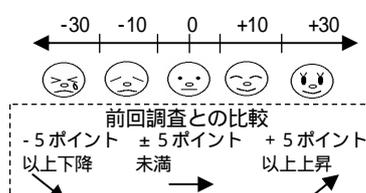


弱いながらも回復傾向を見せる消費マインド

熊本の今後半年間の消費予報【要約】

消費予報の指標としている「景気」、「暮らし向き」、「支出意欲」、「収入」の“見通し”をみると、「景気」見通し D.I.は+14.5 で、前回はわずかに下回ったものの過去2番目の高水準であった。また「暮らし向き」見通し D.I.は前回は5.1ポイント下回り、32.9と低下した。一方、「収入」見通し D.I.は4期連続して改善し10.4、「支出意欲」D.I.も2期連続改善して31.8であった。前回プラスに転じた消費マインドは、弱いながらも11月中旬時点では回復傾向を感じさせる結果となった。

これまでのD.I.の推移をみると、「景気」見通し D.I.が改善すると、それに伴って「収入」見通し D.I.と「支出意欲」D.I.が改善する傾向が見られる。今回「景気」見通し D.I.がほぼ横ばいとなり、さらに11月下旬以降に相次いで発表された各種の経済指標が景気の減速傾向を示したことや定率減税の段階的廃止の決定などが今後心理面に及ぼす影響が懸念される。



1 消費予報の読み方

本調査では、消費マインドに影響する『景気』と『暮らし向き』と『支出意欲(支出の引き締め)』に対する意識、実際の消費に関わる『収入』の増減の、4つの項目について今後半年の見通しを質問している。数値(D.I.)は、「良くなる(増えそう、緩める)」と回答した人の割合(%)から、「悪くなる(減りそう、引き締める)」と回答した人の割合(%)を引いて算出した。4つの項目と『支出』から総合的に判断し、熊本の消費の予報を試みた。

【今後の見通し D.I.の推移】

【調査概要】

対象：熊本市在住の20代から60代の女性モニター500人

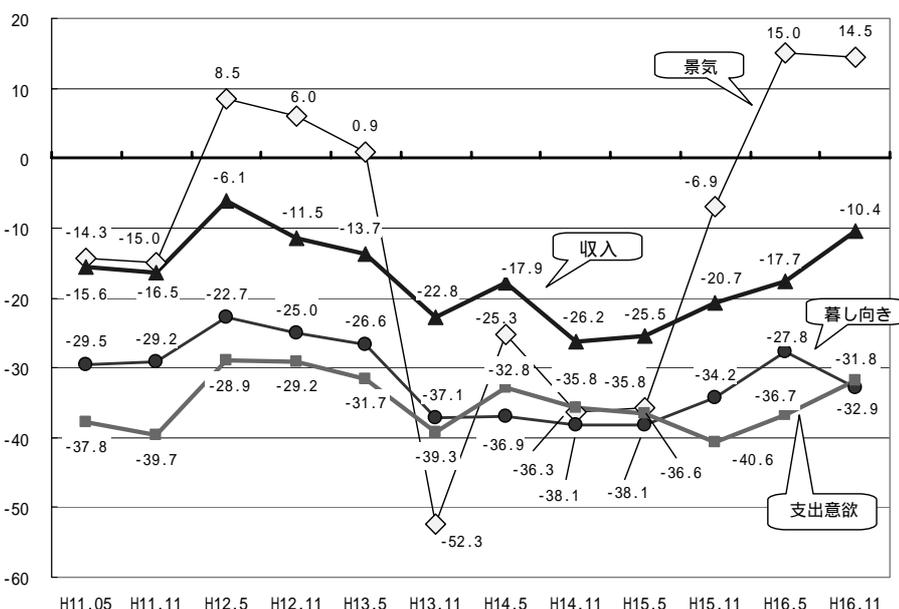
有効回答数：445人

調査時期：平成16年11月10日～22日

調査方法：郵送法

回答者の属性

年齢	実数	%
20代	72	16.2
30代	89	20.0
40代	94	21.1
50代	89	20.0
60代	101	22.7
合計	445	100.0



景気の見通し

今後半年間の景気見通し D.I.は+14.5で、大幅に改善した前回をわずかに下回ったが、水準としては過去2番目に高かった。年代別では30代と50代が前回を下回り、特に50代は13.8ポイントも低下したが、D.I.は+13.5とそれほど悪い水準ではない。

本調査が実施された11月時点では、景気見通しは比較的堅調だと言えよう。

【景気の見通しD.I.】

D.I.=(「良くなる」+「まあ良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

→ 	今回		前回 (H16.5)	前々回 (H15.11)
	(H16.11)	前回比		
全体	14.5	-0.5	15.0	6.9
20代	22.2	6.4	15.8	2.3
30代	2.2	-3.7	5.9	14.0
40代	19.1	6.5	12.6	10.6
50代	13.5	-13.8	27.3	2.2
60代	16.3	4.1	12.2	9.2

暮らし向きの見通し

暮らし向きの見通し D.I.は、前回調査比5.1ポイント減の32.9で、2年ぶりに悪化し、4項目中最も低いD.I.となった。年代別では20代と60代が前回に比べ10ポイント以上減少したものの、いずれの年代もD.I.は30台で、年代による大きな差はあまり見られなかった。

【暮らし向きの見通しD.I.】

D.I.=(「良くなる」+「まあ良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

↘ 	今回		前回 (H16.5)	前々回 (H15.11)
	(H16.11)	前回比		
全体	32.9	-5.1	27.8	34.2
20代	31.9	-12.2	19.7	12.6
30代	31.5	-5.9	25.6	40.3
40代	32.9	1.8	34.7	42.6
50代	31.4	-0.1	31.3	38.6
60代	36.2	-10.2	26.0	36.4

収入の見通し

今後半年間の収入見通し D.I.は前回調査比7.3ポイント増の10.4で、依然としてマイナス水準ではあるが、今回調査の中では最も大きく改善した。年代別では20代を除く全ての年代で前回より改善し、特に50代は前回は15.6ポイント上回った。収入減の不安は徐々に和らぎつつあるように見える。

【収入の見通しD.I.】

D.I.=「増えそう」-「減りそう」

↗ 	今回		前回 (H16.5)	前々回 (H15.11)
	(H16.11)	前回比		
全体	10.4	7.3	17.7	20.7
20代	5.6	-1.7	3.9	4.6
30代	2.3	8.3	10.6	15.1
40代	5.3	9.4	14.7	22.6
50代	13.5	15.6	29.1	32.7
60代	22.7	3.0	25.7	26.0

支出意欲(支出の引き締め具合)

今後支出を緩めるかどうかをみる支出意欲 D.I.は、前回調査を4.9ポイント上回る31.8であった。前回は引き続き改善しており、年代別では20代を除くすべての年代で支出の引き締め感が弱まった。しかし、その水準は依然として低く、消費マインドは回復傾向がうかがえるものの、将来への不安などから慎重な消費行動が続くと思われる。

【支出意欲D.I.】

D.I.=(「緩める」+「少し緩める」)-(「少し引き締める」+「引き締める」)

→ 	今回		前回 (H16.5)	前々回 (H15.11)
	(H16.11)	前回比		
全体	31.8	4.9	36.7	40.6
20代	36.2	-4.7	31.5	43.3
30代	41.6	7.3	48.9	55.2
40代	30.8	14.5	45.3	53.2
50代	27.0	3.3	30.3	38.2
60代	25.3	2.7	28.0	16.0